

シラバス作成ガイドライン

2026年4月1日
学校法人中央情報学園

中央情報学園は、学生の主体的な学びの一助となるように、全ての授業科目のシラバスを公開します。シラバスは、科目名、担当教員名、科目の目的、達成目標、成績評価方法・基準、各回の授業内容や、教科書・参考文献等が示すことにより、学生が各授業科目の準備学習等を進めるための基本となり、教員相互の授業内容の調整や授業評価、学生による授業評価など教育内容の質保証に役立つものです。

本ガイドラインでは、シラバスの書式、記載方法、記載内容の統一性を保つとともに、学生にとって分かりやすいシラバスの作成を促すものです。

シラバスの記載事項

| 記載項目 | 内容 | 留意点 |
|-------------------|---|---|
| 基本項目 | 科目名、単位数、対象学科学年、必修／選択区分、担当教員名、実務経験のある教員かどうか、授業形態について示す。 学則で決められている項目は、学則どおりに記載する。 | |
| 科目の目的 | 学科の教育目標・育成する人材像と科目の関連を具体的に示し、学生に学習の意義をわかりやすく理解させるために示す。 | ・目的の主語が学生になっている |
| 実務経験のある教員等による授業内容 | 実務家教員が担当する場合は、科目の目的と教員の実務経験との関連とどのような授業を行うかを示す。 | ・具体的に、業務内容、経験年数などを記載し、実務経験を活かした授業内容を記載 |
| 教科書・参考書・教材等 | テキスト、参考書、サイト等の名称、出版社、URL等を具体的に示す。 | ・配布、購入等の入手手段が明らかである |
| 到達目標 | 学習目的を達成できた結果、どのような知識・スキルを修得できるのか、観察可能な具体的な内容を示す。 | ・主語は学生で、「できる」などの行為を示す動詞で結ぶ ・評価可能な項目になっている ・1文に1つの目標を記載する ・目標のレベルが適切である |
| 評価方法と基準 | 到達目標に対する達成度をどのように測るかを示す。 | ・評価方法（学習態度、小テスト、期末テスト、レポート、成果発表等の総合力） ・評価方法の配分割合 |
| 授業計画 | 学生の予習・復習の参考になるように、授業の進度に即したコマ単位で授業内容を示す。 | ・テーマが具体的である ・理解およびスキル修得のための順序が適切である ・時間配分が適切である |
| 予習・復習 | 1単位あたり45時間の学修となるよう授業外学習の内容を具体的に示す。 | ・授業の科目の特性に合わせた、学修効果のある適切な予習・復習である |

(記載例)

【科目コード】

| | | | | |
|-------------------------------|--|---------------------|---------------|-------------------|
| 科目名 | 〇〇〇〇 | | | |
| 単位数 (授業時間) | ○ (〇〇時間) | 〇〇学科 〇年 | 履修区分 | 必修 |
| 担当教員名 | 〇〇 〇〇 | 実務経験のある教員 等による授業 | 授業形態 | 講義 〇% 演習・実習 〇% |
| 科目の目的 | 〇〇することを目的とする。 | | | |
| 実務経験のある教員 等による授業内容 | 〇〇〇〇は、〇年以上実務に携わった実績があり、その経験を活かして、実践的な授業を行う。 | | | |
| 教科書・参考書 ・教材等 | 教科書： 教材：適宜プリント配布 | | | |
| 到達目標 | 1. 2. 3. | | | |
| 評価方法と基準 | 平常点（学習態度・意欲、小テスト、演習提出物、総合力）と定期試験により、100 点満点で採点し、合格（A：90 点以上、B：75 点以上 90 点未満、C：60 点以上 75 点未満、D：50 点以上 60 点未満）不合格（F：50 点未満）の 5 段階で評価する。総合力では、知識・理解力、思考・推論、応用力、創造力、コミュニケーション力、学習に取り組む姿勢を評価する。 | | | |
| 授業計画（各回テーマ） | 教科書のページ、オリジナル教材の内容 | | 副教材の利用 | |
| 1. | | | | |
| 2. | | | | |
| 3. | | | | |
| 4. | | | | |
| 5. | | | | |
| 6. | | | | |
| 7. | | | | |
| 8. | | | | |
| 9. | | | | |
| 10. | | | | |
| 11. | | | | |

※講義、演習は 16 授業時間で 1 単位。実習は 34 授業時間で 1 単位。

| 授業計画（各回テーマ） | 教科書のページ、オリジナル教材の内容 | 副教材の利用 |
|--------------|--------------------|--------|
| 12. | | |
| 13. | | |
| 14. | | |
| 15. | | |
| 16. | | |
| 17. | | |
| 18. | | |
| 19. | | |
| 20. | | |
| 21. | | |
| 22. | | |
| 23. | | |
| 24. | | |
| 25. | | |
| 26. | | |
| 27. | | |
| 28. | | |
| 29. | | |
| 30. | | |
| 31. | | |
| 32. | | |
| 33. | | |
| 34. | | |
| 予習・復習 | | |

(参考) アクティブ・ラーニングによる授業の例

| 種別 | 説明 |
|-----------|--|
| 事前学修型授業 | 教科書／参考書等（動画教材は除く）により講義部分を授業外に 事前学修 させた上で、授業内でその事前学修にもとづく演習を行わせる方法。 |
| 反転授業 | 動画教材により講義部分を授業外に 事前学修 させた上で、授業内でその事前学修にもとづく演習を行わせる方法。 |
| 調査学習 | 学生が与えられたテーマに対して、授業中や 授業外学修 において自ら調べ物をさせる方法。 |
| フィールドワーク | 学内外のフィールド に赴き、調査や観察を通して情報収集を行わせる方法。学外施設等の見学を含む。 |
| 双方向アンケート | 授業中 に IT 機器やクリッカー、あるいはコメントペーパー等を利用して、教員と学生による双方向的な対話を行わせる方法。 |
| グループワーク | 学生を少人数のグループに分け、与えられた課題に協同で取り組ませる方法。2人組によるペアワークも含む。 |
| 対話・議論型授業 | 授業中 に特定のテーマについて対話又はディスカッションを通して理解を深める方法。特定のルール下で議論の勝敗を競うディベート方式も含む。 |
| ロールプレイ | 学生に特定の役割を与えて演じさせることを通じ、それぞれの立場の人等の考え方を体験的に学ぶ方法。 |
| プレゼンテーション | 学生がパワーポイント等を用いて発表資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行わせる方法。 |
| P B L | テーマに沿ったプロジェクト又は特定の問題を提示し、それらの問題解決を通して、様々な知識・スキルを学ばせる方法。 |
| 質問タイム | 学生からの質問を促し、自発的な問いを生み出す。 |